



論文を発表する石井野絵さん

石井野絵さん(小野中3年)が 「朝河貫一賞」で最優秀賞を受賞

国際理解・国際交流をテーマとした中高生対象の論文コンテスト「朝河貫一賞」中学校の部で石井野絵さん(小野中3年)が最優秀賞に選ばれました。

石井さんは「私には夢がある」と題し、アメリカでのホームステイ体験や震災後の出来事を踏まえて、真の国際社会の実現において、最も大切なことは相互理解・相互尊重の精神だと訴えています。

ここに石井さんの栄誉をたたえ、論文の全文をご紹介します。

私には夢がある

小野中学校 3年 石井 野絵

「I Have a Dream」

という願いが繰り返された有名な演説がある。アメリカのキング牧師による「私には夢がある」という名で知られる演説だ。私はこの演説を知ったとき、大きく心を揺さぶられた。これからの国際社会において最も大切なことが、この演説に込められていると感じた。未来の社会を担う一員として、私も「夢」をもち続けたい。

アメリカは以前、深刻な人種差別問題を抱えていた。特に黒人に対する差別は根の深い問題だった。アメリカ建国において、黒人は自らの意思ではなく「奴隷」として強制移住させられた過去がある。一八六三年のリンカーン大統領による奴隷解放宣言により、「奴隷」という制度は廃止されたが、激しい差別は残った。裁判という公式な場においてさえ、「白人と黒人の生活を分離する」という判決が出されるなど、日常生活における差別は依然として残されたままだった。

その流れが変わったのは、キング牧師を中心として一九五〇年代半ばから始まった人種差別的撤廃を求める運動だ。

非暴力手段を前提とし、法の下の平等を掲げ、差別と闘った。その中でキング牧師が行ったのが、先に挙げた演説だ。彼は黒人のみの権利を主張したのではなく、人が人として保障されるべき生命の安全、様々な自由、そして幸福は、全ての人に与えられなければならないとして活動した。「あらゆる山々から自由の鐘を鳴り響かせる」ために先頭に立ったのだ。

私は一昨年、アメリカにホームステイをした。初めての海外で緊張していた私に、ホストファミリーはとても優しく接してくれた。家族の一員として迎えてくれた。私はその人と人とのつながりを温かく感じ、その中でアメリカの歴史や風土、文化、互いを認め合い、尊重しあう精神を学んだ。長い苦しみの期間を経て、今を迎えた「アメリカ」を感じる事ができた。

しかし今でも、見えない差別やそれを原因とする犯罪が続いているという。同じ人間に心や体を傷つけられている人々が数多くいる。私は「差別」という問題がどれだけ難しく、解決の困難な課題なのだろうかと悲しく思った。

この世に自分と全く同じ人間はいない。それぞれの容姿は違い、性別が違い、

(次ページにつづく)